

氏名	上野 齊 嗣
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第400号
学位授与の日付	昭和44年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Studies on Fluidity of Blood on the Basis of Fibrinolysis. Part 6 Relationship of Fluidity to plasmin of Blood in Sudden and Instantaneous Deaths and That from Asphyxiation. 線維素溶解現象からみた血液の流動性に関する研究 第6報 急死血, 窒息死血, 瞬間死血の流動性と plasmin の比較
論文審査委員	教授 平木 潔 教授 妹尾左知丸 教授 小川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

著者の教室では急死血の流動性の原因は心臓の動いている間に活性化された plasmin が末梢血管から心臓へはこばれて心臓内血液が線溶をおこし, その結果屍血が流動性を呈するものと考えているが, 著者はこの点について多数の実際例について観察研究した。

健康ヒト血液, 疾患時血および比較的ながく生存した病死血には自然線溶はみとめられず, 加 streptokinase (SK) 線溶は正常ヒト血液の線溶価と変りのないことをみとめた。急性失血死, 窒息死血ではつよい自然線溶がみとめられ, 加SK線溶価は著明に減少したが, 鞭死のごとき瞬間死では自然線溶はみとめられず, 加SK線溶価も正常ヒト血液のそれと変りのないことをみとめた。

以上の結果は著者等教室の研究成果を実証するもので, さらに急死血の流動性には Hoffmann の云う死戦期の長短が関係することが考えられた。

(Japanese Journal of Legal Medicine Vol.23 No.2, March, 1969)

論文審査の結果の要旨

屍体における血液の自然線溶は、窒息死判定に極めて重要な根拠となる事は周知の如くである。著者は多くの人体変死例について線溶現象を観察し、窒息死の外に急性失血死に於ても線溶現象が認められる事及び縊死等で瞬間死した場合には線溶現象が起らない事を明かにした。本研究は死因究明に極めて重要な新知見を加えたものであり、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。